

令和2年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 2	公益目的事業 11
主査名	寺田一薫 東京海洋大学教授	
研究テーマ	バス・タクシー部門における運転時間規制と安全管理に関する研究	
研究の目的：		
社会全体に過重労働が問題となる中、バス、タクシー運転者については、その長時間労働や疲労運転に起因する重大事故が社会問題化している。運転士不足への対応も必要とされる。これらの運転者に対しては、「改善基準告示」として労働・運転時間規制が課されており、現在、その見直しが行われている。しかし指針となるべき既往研究が少なく、多面的な整理が必要になっている。産業全体の効率化のための課題は、運転者だけにとどまらない。点呼等を含む運行管理制度、営業所概念等の組織形態、その法的位置づけの見直しも求められる。また、各国とも共通の問題に直面しており、運転時間規制、運行管理者制度等に関する国際比較も求められる。		
研究の経過（4月～3月）：		
コロナ禍による制約のため、研究期間の前半に研究会を開催できず、当該期間には、文献調査のみを行った。その後、第1回研究会において、英国における公共輸送車両(PSV)の運行管理制度・安全規制と関連法令違反の実態、わが国において行われている始業点呼の飲酒運転・重大事故防止効果等に関して議論を行った。第2回、第3回研究会では、運転者不足対策としての自動運転に対するバス事業者の認識や期待度、実際のバス運転者の労働・運転時間の状況とその問題点等について議論した。さらに、複数の関係アンケート調査結果を総合した分析と政策的課題抽出に向けた討議を行った。		
研究の成果（自己評価含む）：		
点呼、とくにその中心となる始業点呼については、一定範囲(飲酒を伴う重大事故)で安全への効果を果たしている可能性が強いことがわかった。運行管理者と運転者が直接対面せずに営業所以外で行う遠隔点呼は、対面点呼並みの効果を発揮できていない可能性もあることが判明した。また、国際比較では、英国のバス部門においても飲酒運転等、わが国と共通する課題があるものの、規制効果を踏まえた規制資源の配分面において分析と対応が進んでいることがわかった。		
今後の課題：		
本研究では、バスを中心にタクシーを含めた検討を行った。しかし新たな規制枠組みを描くには、トラック、ならびに車両管理等自家用交通との中間形態を含めた分析が必要である。また、IT技術の運行管理への導入は、トラック分野で他モードより進んでいる。トラックを含めた分析、あるいはトラック分野の取組を参考にした旅客輸送の分析が必要である。		